

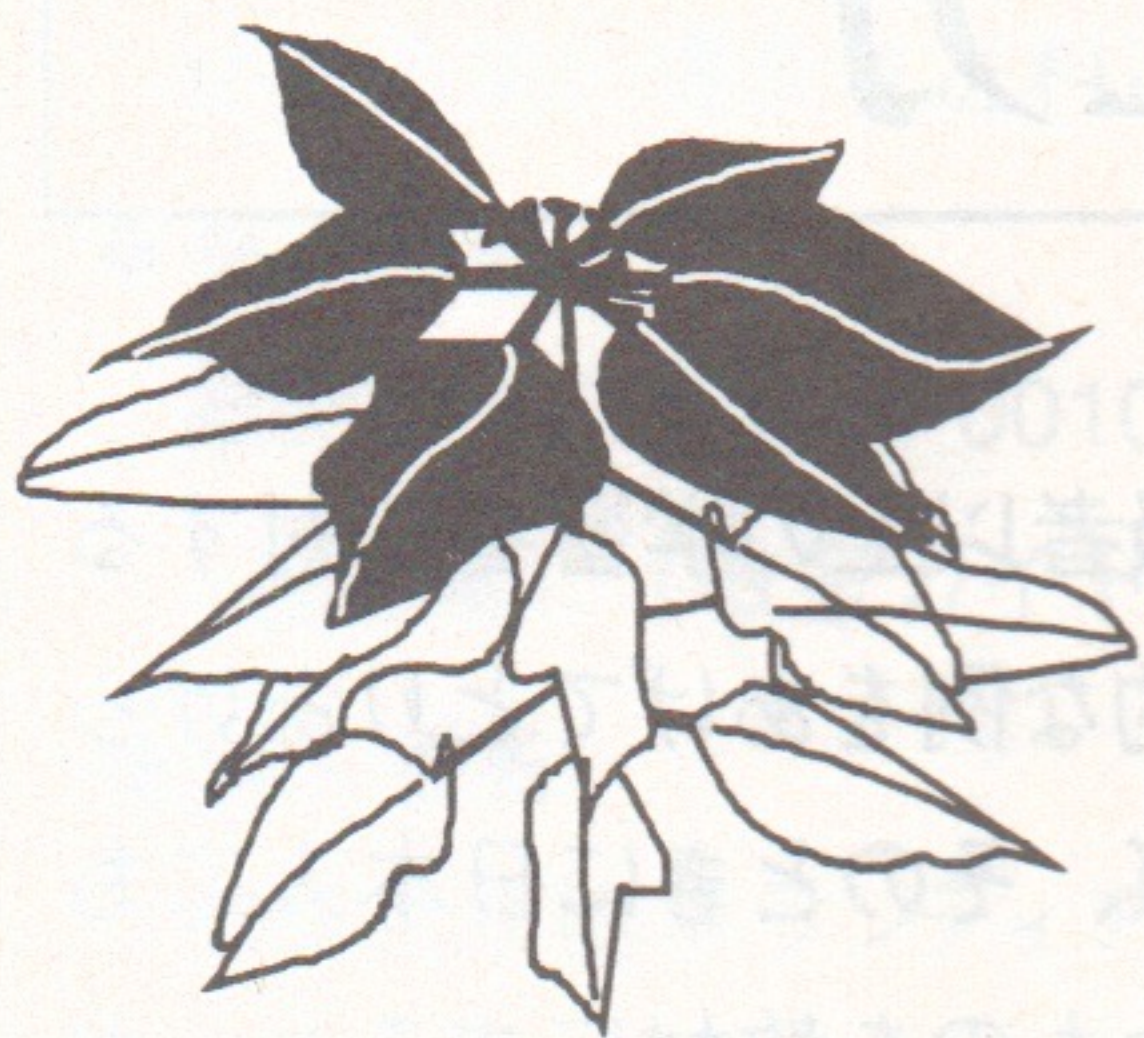
Nihongo Network News

1999.12.10発行

No.24

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171



平成11年度 ボランティア・リーダー研修会に参加

さまざまな分野で活動する都内のボランティア団体が集まり、相互の情報交換や共通課題について研究・協議することを目的に、平成11年度のボランティア・リーダー研修会が10月30日(土)飯田橋セントラルプラザ11階で開催されました。これは、東京都社会福祉協議会ボランティア団体連絡協議会実践部会(TNVN参加)と東京ボランティア・市民活動センターとの主催によるもので、約100名近くが参加。午前はシンポジウム「～ボランティア・NPOが検証する～介護保険で出来ること!? 出来ないこと!」、午後は4つの分科会と、パネルディスカッションが行われました。

午前の部は山崎美貴子東京ボランティア・市民活動センター所長の開会挨拶の後、中野区地域ボランティアコーナー懇談会による介護保険をテーマにした劇で始まりました。続いて、野方の福祉を考える会と東京社会事業学校同窓会「泉の会」からの

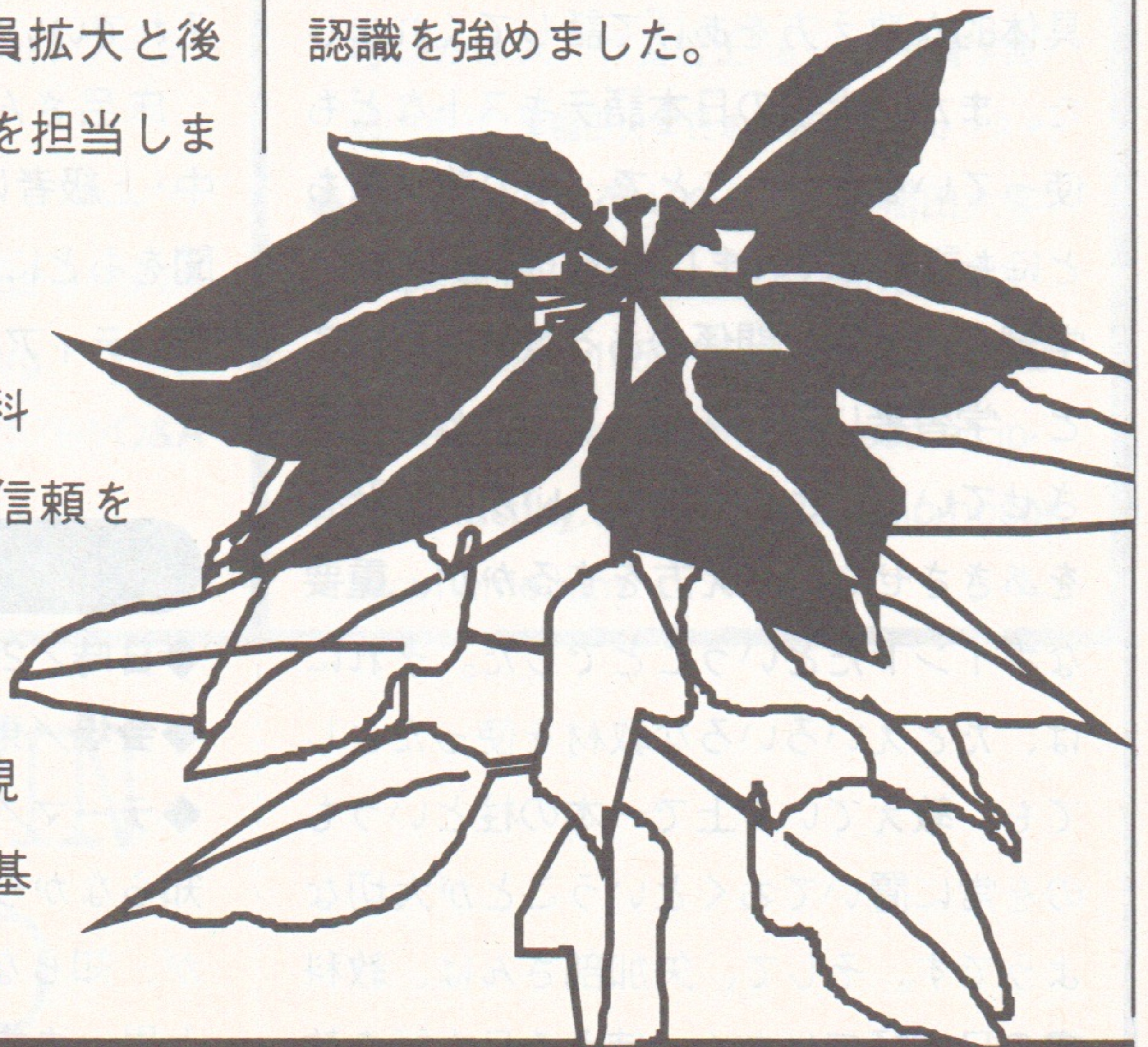
報告と討論があり、介護保険だけでは全ての介護は賅えない、介護の対象とならない老人のケアは地域のボランティアに頼らざるを得ないとの認識を得ました。

午後の分科会では、市民活動団体が抱えている運営上の課題について、①活動資金をどう作り出すか ②新しいリーダーシップとは何か ③会員拡大と後継者養成の取り組み ④地域でのネットワークづくり、の4テーマで事例報告がありました。TNVNではこのなかの第三分科会「会員拡大と後継者養成」での事例報告を担当しました。

分科会後のパネルディスカッションでは、各分科会からの報告をもとに ①信頼を得るにはまず実績を挙げ、胸を張って行動できること。縁を育てること ②展望と視野を持ち、3年後の目標・基本計画を作る ③任意団体

からNPO法人にかわり社会的責任が増し、活動は評価される ④会員を活動会員と支援会員とに分けその役割を明確にする、などについて話し合われました。

最後に、新谷浩子実践部会長から閉会の挨拶があり、参加者による交流会で研修会の幕が閉じられました。今回の研修会に参加して、市民活動団体は地域住民からの強い信頼を得て初めて活動でき、それには目的を明確にし理解を得ることが重要、との認識を強めました。



第10回 ネットワーク情報交換会

日時：1999年11月19日(金) 18:00~20:00

会場：東京ボランティア・市民活動センター 会議室

中級以上の 学習者支援の仕方

事例報告

◆「江戸川にほんご交流会」

矢加部百合枝さん

◆「まちだ日本語ボランティアネット」

床呂英一さん

今回は、「中級以上の学習者支援の仕方」というテーマで、まず江戸川にほんご交流会の矢加部さんと、まちだ日本語ボランティアネットの床呂さんに事例発表をしてもらい、そこからテーマにそって討論をしてみました。

最初に、矢加部さんは、中級以上の学習者の教材というものはどんなものでも使える、また、どういう形でも授業を展開させることができると発言。たとえば、新聞やチラシ、料理のレシピなどを使ってでも授業はできるということ、具体的な教え方をあげて話してくれました。また、大学の日本語テキストなども使っているということで、その教材をもとにも話してくれましたが、肝心なのは、学習者の生活に関係のある教材を選ぶこと、学習者に課題を与えて、さらに発展させていくこと、つまり、いかに学習者をあきさせない教え方をするかが、重要なポイントだということでした。それには、たとえいろいろな教材を使ったとしても、教えていく上で一本の柱というものを常に置いておくということが大切ようです。そして、矢加部さんは、教科書の日本語ではなく、使える日本語を教

えているとのことで、たとえ教科書を使っても、それをアレンジして、使える日本語にして授業をしているとのことでした。

次に、床呂さんは、まず、一体どこから中級と言えるのか、という点から話をスタート。日本語学校でいう中級、日本語能力試験での中級（2級程度）、とそれぞれの違いをあげて話してくれましたが、一般的には、「新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ」が修了した段階から中級としていいのではないかとということでした。また、それについて、ボランティアはボランティアの概念で、それぞれの学習者にあったレベル分けをすべきで、日本語学校や日本語能力試験に準ずる必要はない、線引きをする必要はないのではないかと意見も聞かれました。ボランティアが、その学習者を中級だと思えば、それでいいのではないかとことです。

床呂さんの発表のなかで、中国人の中・上級者に日本文化を紹介したり、新聞をもとに議論を展開したり、また、ボランティアの海外旅行談などを教材にし

たり、など中級者以上の学習者に対する教え方を具体的な例をあげてとりあげられていましたが、そのときに日本人にも難しい専門的なものを教材にすると、かえって危険なので避けた方がいいのではという意見もありました。

中級以上になると、テキストの種類が少ないこともあり、教材に悩んでいるボランティアも多いようですが、常に、教材として使えるものはないかと普段からアンテナをはっていることも大切ようです。また、中級とはこうあるべきというものはなく、会話にしても、読解にしても、学習者のニーズに応じて、ボランティアがうまく教材になるものを用意すること、など中級以上の学習者に対する教え方に決まったものはない、ということでした。ただ、初級から中級へのつなぎ方を考えること、勉強した「ことば」が自由に会話で使えるようになるように教えることが一番大切なのではないか、という結論でした。

次回のネットワーク情報交換会のご案内

◆日時／2000年1月21日(金) 18:00~20:00

◆会場／東京ボランティア・市民活動センター 会議室

◆テーマ／日本語の上手な話し方

知らなかった、使わなかったためにどんなトラブルが起きたかや、使わない方がいいが、知らないといけない悪い日本語など、上手な話し方について情報交換をしたいと思います。多数のみなさまのご参加をお待ちしています。

にほんご

ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

アイデア

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立つ教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

ボックス

ボランティアからの提案

短期滞在者のための3つのヒント

初級学習者のための「すぐ使える日本語」学習

青山日本語クラブ（港区）山縣みつる

ボランティア日本語教室には、長期の在住外国人ばかりでなく、研修・出張など、短期滞在の外国人が学習に来ることもあります。短時間で、しかもすぐ毎日の生活に役立つ初級の日本語を学習するために、日頃、心がけている事項をご紹介します。

3ヵ月程度の滞在では、毎週1回1時間30分の学習で合計18時間位になります。その限られた時間のなかで、学習者個人の要求と能力を判断しながら、以下の要領を基本に学習します。

■ひらがなとカタカナの学習■

短期間での学習なので、ひらがなとカタカナの読み書きを同時に学習します。

ひらがなとカタカナの学習には、五十音練習帳（マス目のノート）を活用。

ノートには、すべて本人に母国語を書き添えてもらうようにします。

①お手本として、わかりやすく、はっきり発音しながら、ノートに書く。（赤ペンを使用）

②別の用紙（不要紙でよい）を用意して、書き順を見せながら大きく書く。

③ノートに学習者本人が書き順を書く。

④余白の部分は学習者の宿題として、自宅で練習してもらう。

次回の学習時に間違いは赤ペンで訂正し、上手な部分はほめるようにする。

（下図五十音表参照）

■あいさつの言葉■

毎日使うあいさつの言葉は、場面ごとに繰り返し練習するようにします。

時間	出会い（母国語）	別れ（母国語）
朝	おはよう(ございます)	さようなら
昼	こんにちは	さようなら
夜	こんばんは	さようなら
		おやすみなさい

初対面

はじめまして どうぞよろしく（母国語）

	ki	ka	o	e	u	i	a	母国語						
キ	き	カ	か	オ	お	エ	え	ウ	う	イ	い	ア	あ	
							ゝ①	っ①	っ①	っ①	っ①	っ①	っ①	
							え②	っ②	う②	イ②	い②	ア②	あ②	
							え	ウ③	う③	イ③	い③	ア③	あ③	
							え	ウ	う	イ	い	ア	あ	

母国語
ひらがな
カタカナ
書き順

■日常必要な言葉、疑問文など■

日常生活のなかで最低限必要な言葉、数、疑問文などは、なるべく具体的な例をたくさんあげて練習しましょう。

①「です、ます」の文章

わたしは～です

（名前、学生、主婦、など）

あなたは～ですか？

はい、～です

いいえ、～ではありません

これは～です

（それ、あれ、ここ、そこ、あそこ、など）

これは～ですか？

はい、～です

いいえ、～ではありません

②お金の単位

お金の単位は、数の数え方と同時に、できるだけ実物の紙幣やコインを見せながら学習するとよい。金額については、広告などを用意して、さまざまな金額を繰り返しわかるまで練習する。

これは、いくらですか？ 25円です

250円です

2500円です

25000円です

③時間の言い方

「〇時〇分」「午前、午後」など、時間の言い表し方を時計や図を使って練習する。とくに「4時」「7時」「9時」は「よんじ」「ななじ」「きゅうじ」と間違いやすいので注意が必要。さらに、数の数え方を復習しながら、違いについて学習するとよい。

いま、なんじですか？

～じ～ふんです

④生活場面での動詞

基本の動詞の学習には、学習者の生活状況に合わせた言葉を活用する。言葉だけでなく、絵カードやジェスチャー、実物などを利用すればより効果的。また、家庭学習や復習は必ず行うようにする。

食べる 食べます（パン、ケーキ）

飲む 飲みます（コーヒー、ビール）

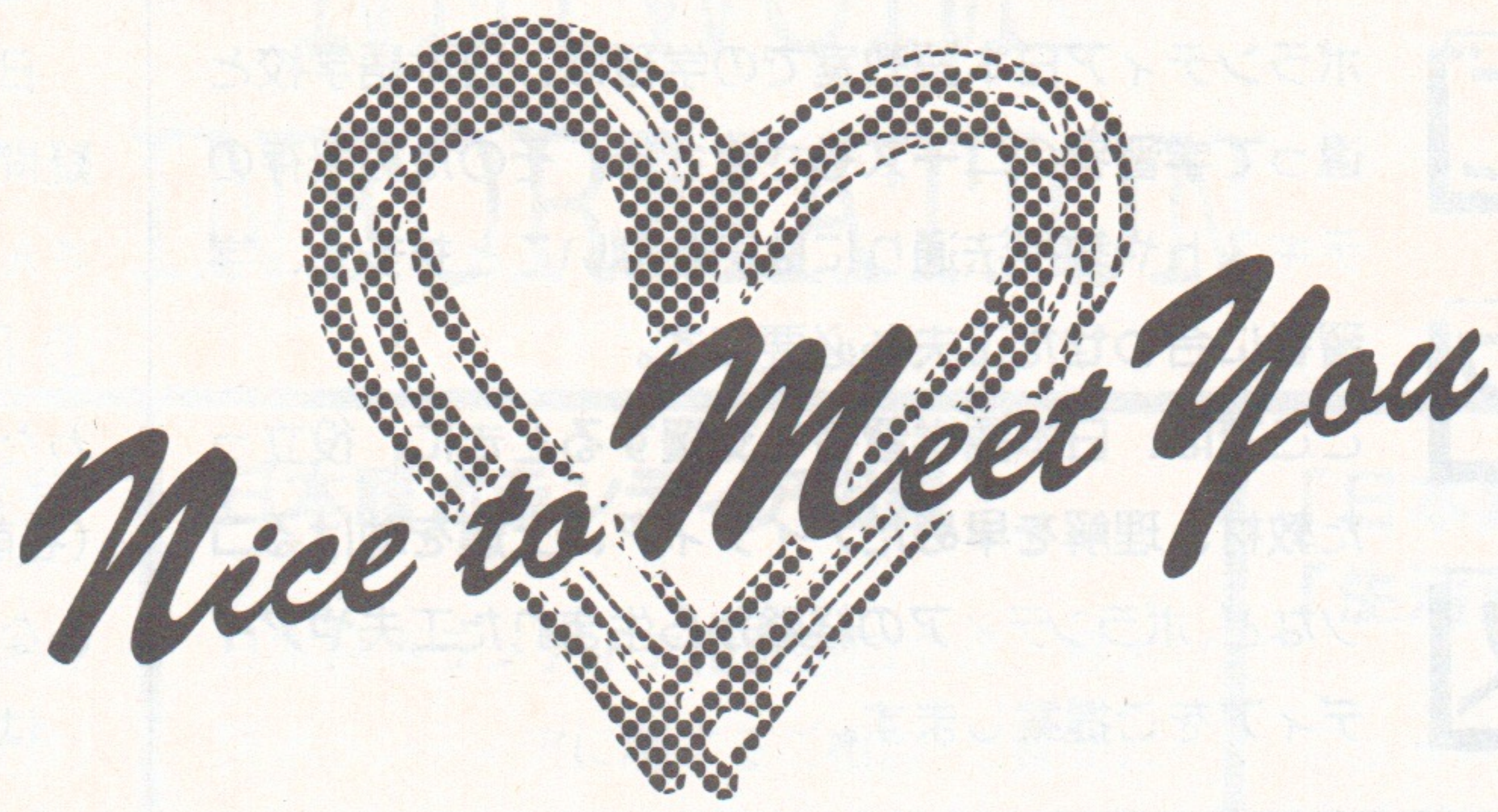
見る 見ます（映画、TV）

行く 行きます（学校、病院）

帰る 帰ります（国）

～を～ます

～に(へ)～ます



憩いの場でも ありますように

中国帰国者の会・立川日本語教室 (立川市)
西尾美智子

私たちの教室は、開設から今年で十三年目を迎えようとしています。当初は、中国帰国者のための日本語学習の場としてスタートした教室ですが、現在の受講者は、帰国者二世、三世、国際結婚した人たち、企業の研修で来日している人やその家族と、顔ぶれも多彩になりました。共通しているのは、中国語を母国語とするということです。教室は夜間に開いているので、皆、仕事や学校を終わった後に集まって来ます。授業は、日本語のレベルによってグループで行い、主に日常日本語会話をマスターすることを目標にしています。二時間授業の間に休憩のお茶の時間を設け、その時は自由に中国語で談笑したり情報交換をしたりして、ちょっと一息入れます。

私たちは、この教室が日本語を学習するだけの場ではなく、慣れない日本での生活のストレスや悩み等をお互いに話しあったり、交流したりできる場であることを願っています。そのため、年に二回は手作り餃子会を開いて、皆で餃子を食べながら楽しい時を過ごします。その折は、もう卒業した人たちも集まって、たいへん賑やかです。開設以来、完全なボランティア団体として運営してきて、講師の交通費やコピー代も講師負担です。そのため、後継者が得られないことは大きな悩みです。でも、現スタッフは、何とか教室の灯をともし続けるべくがんばって、いこうとしています。



いつでも、だれでも 入会できます！

東大島日本語教室 (江東区)
宮田百合子

「この教室に、入会規則はありません。いつでも、だれでも参加できます。休みたいときは、どうぞ休んでください」初めて教室を訪れた学習者も、ボランティア希望者のかたも、これを聞いて、ちょっと戸惑ってしまうようです。

自然発生的に誕生した東大島日本語教室、こんなふうにして、7年間続いてきました。決まったクラスも、決まった教科書もなし。パーティーのときだけ顔を出すパキスタンのAさん。しばらくご無沙汰だった韓国のビジネスマンKさんが、先週、ひょっこり現れて、また、熱心に通いだしました。一日だけの縁だった人もいました。近所の英語学校の先生たちが20人以上も突然押し寄せてきたこともありました。もちろん、何年も続いているブラジル・イラン・中国…などのレギュラーメンバーの方々も…。今は、ボランティアの方々とペアを組んで日本語能力試験の準備中です。

「だれでも、いつでも出入りできる近所の日本語教室」これこそ、私たちが目指しているスタイルなのです。夕方、仕事を終え、学校を終え、一日の疲れにめげそうになりながらも、学び合う楽しさに、時間を忘れてしまう一時を、学習者も、ボランティアメンバーも、互いに共有しています。

「教室に遊びに来ませんか！その日から、あなたもメンバーです！」



日本の体験

李 信興 / 台湾 (東大留学生)

台湾の中正空港から成田空港に到着し、日本の留学生生活が始まりました。満開の桜を初めて目にした時、とても感動しました。しかしその一方で、日本の寒さは厳しく、借りたアパートの中でシュラフを被り、外国に来たとしみじみ感じました。日本に親戚がいないため、生活についてのことは全部一人でしなければなりません。台湾語が通じない異国で、外国人登録、銀行の通帳の開設、電話の設置などの手続きはたいへんでした。しかし、私はいつも「はい」と返事した結果、問題なく手続きが済んだようです。

月曜日から金曜日まで、昼は研究室に通い、夜は三つのボランティア日本語教室に通いました。土、日曜日は、名勝古跡へ観光に行きました。また、隔週、母の友だちの友だち（日本人）の家へ遊びに行きました。時々、ボランティア日本語教室の先生たちが行う料理教室もあり、私は欠席したことがないです。肉じゃが、天ぷら、そう

めんなどの料理をおそわりました。

日本に来て、いろいろな人に出会って面白かったです。親切な人もいましたし、無愛想な人も結構いました。時には、私に難しい日本語の問題を出し、私の日本語の程度はどのぐらいかと試す人もいました。別に試されることは気にしませんが、相手のいじめる態度には我慢ができなく、腹が立ちました。しかし、幸いそのような人にはあまり会いませんでした。良かったことには、大家さんが中古の自転車をくれたことや研究室の人が作文をチェックしてくれた事が挙げられます。

日本の生活は、私にとってはとても貴重な体験になっています。日本の社会と文化を少しずつ分かるとともに、台湾の社会と文化も他の角度から分かるようになりました。日本に来て一度もホームシックにならず、毎日楽しんでいますが、母は息子がなかなか帰ってこないと嘆いています。

日本語教室には、言葉の学習の場としての大きな役割があります。しかし、私が活動をはじめて間もなく、それだけではないということに気がきました。人と人との出会い、交流の場所としての役割も担っています。情報交換や相談事、自己表現などを求めて訪れる人が多くいます。

近頃は不況の煽りを受け、殺伐とした世の中での生活に疲れて、ホームシックやリストラに喘いでいる人もいます。相談事や揉め事の相談を受けた者がすべて満足できるお手伝いができるわけでもなく、適切な支援ができる人への橋渡しのために、さらにネットワークを広げることが迫られています。

また、情報や伝達の間としての役割も果たさなければならないと思うようになりました。最近、外国人に防犯や防災・医療など

についてのアンケートをとる機会がありました。そこで分かったことは、必要な情報が外国人にほとんど届いていないということです。これでは、たとえ良い制度やサービスがあっても、なんの役にも立ちません。現場の声を行政に届け、行政の目の届かないところを微力でも埋めることも必要ではないでしょうか。

外国人にとって住みやすい地域は、私たち日本人にとっても暮しやすい場であろうと思います。共に安心して暮らすには、地域の中での人間関係を作るきっかけ作りも大切なことでしょう。

これまで5年間、実に多くの人に出会い、実に多くのことを教わり、そこで見聞きし、体験したことが私自身の世界を広げてくれる良い機会になっています。

ボランティアと今…

松本祥子 (すみだにほんごボランティア21)

東京日系人雇用サービスセンター

●所在地・連絡先／ 〒110-0016 東京都台東区台東2-27-3 NSKビル2階

TEL：03-3836-1090 FAX：03-3836-1099

●受付時間／9:30～16:30（土・日・祝日は休み）

日系人労働者と企業を結んで 安心して就労できる環境を

近年、日本ではブラジル・ペルーなど南米諸国等から、今世紀前半に新天地を求めて移住した人々の子孫である日系人の就労が急増し、その数は既に21万人を超えているともいわれています。そこで、日系人の労働問題などを支援している「東京日系人雇用サービスセンター」取材しました。

「東京日系人雇用サービスセンター」は、JR御徒町駅南口から徒歩7分ほどのところ、昭和通りに面したマンション風のきれいなビルの2階にあります。国際部長の藤田和夫氏と中南米在住経験を持つ日系人援助課長の円岡修氏にお話をうかがいました。

入管法の改定により増えた日系人

日系人の就労者は、1985年ごろから目立つようになりましたが、そのころは日系一世の人たちが主でした。1990年に入管法が改定され、日系二世・三世の人たちの就労の道が開かれると、3年間の特定ビザをもらって日本で働く日系人とその家族が増加。それにともない、文化の違いや言葉の問題によるいろいろなトラブルも多くなってきました。

「日系人雇用サービスセンター」は、1991年8月、労働省の委託により財団法人産業雇用安定センターが、主としてブラジル・ペルーをはじめとする南米からの日系人の就労経路の適正化を図るとともに、安心して働ける職場を提供するため、東京都上野公共職業安定所及び愛知県名古屋中公共職業安定所と共同で、「東京日系人雇用サービスセンター」、「名古屋日系人雇用サービスセンター」を開設。1992年にはブラジル国サンパウロ市に「日伯雇用サービスセンター」を設置しました。1994年より日系人が多数就労している10都府県（栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・静岡・岐阜・愛知・大阪）に地方事務所において、職業生活カウンセラー、職業生活補助員（通訳）及び雇用管理相談員を配置しています。

※財団法人産業雇用安定センターは、1985年に始まった鉄鋼・造船等不況リストラを受けて、1987年3月、失業なき雇用移動を目指した政府の“30万人雇用創出プログラム”の一

環として、労働省と経済界の協力により出向・移籍の専門機関として発足しました。

「日系人雇用サービスセンター」の業務

●日系人就労適正化対策事業

①労働・職業生活相談と問題解決の援助

日系人が悪質なブローカーの仲介で就労した場合などには、さまざまなトラブルが発生します。こうした問題に対し来所または電話による相談を受け、全国の労働基準監督署等との協力のもとに問題の解決に努めています。

②求人・求職相談と紹介

全国の公共職業安定所（ハローワーク）のネットワークを通じて求人及求職の情報を連絡するとともに、窓口にはポルトガル語・スペイン語の通訳を配し、求人・求職相談と職業紹介を行っています。

③ブラジルでの個別求人情報の提供及び職業相談の実施

「日伯雇用サービスセンター」では、東京及び名古屋の「日系人雇用サービスセンター」と連携して、日本での就労希望者に対し個別求人情報を提供し職業紹介の取り次ぎを行うとともに、就労に関する相談に応じています。

④経済事情・雇用事情等に関する情報の提供及び資料の作成・配布

在日または、ブラジル在住の日系人に日本の経済事情・雇用事情等に関する一般事情を定期的にポルトガル語とスペイン語で提供しています。

また、日系人を雇用している企業・日系人を雇用しよう



（資料・写真提供／東京日系人雇用サービスセンター）

としている企業に、雇用管理事例集をはじめ事業案内リーフレット等の資料を作成・配布しています。

●日系人雇用管理改善事業

①職業生活相談と研修会の実施(日系人向け)

日系人が日本国内で就労する場合、日本の職場慣行や生活習慣に不慣れなため、職場や地域においてトラブルが生ずることがあります。このため、当センターの10都府県の地方事務所においては、カウンセラーによる職業生活全般にわたる相談を通訳つきで実施。また、ポルトガル語とスペイン語による職業生活ハンドブック「日本で働く日系人のためのガイドブック」やテキスト「職場で役立つ日本語会話集」を配布し、日系人労働者のための合同研修会及び日本語講習会を開催しています。サンパウロ(ブラジル)でも2ヵ月に1回、研修会が実施されています。

②日系人雇用管理研修会の開催と雇用管理相談の実施(企業向け)

日系人を雇用している企業、これから雇用しようとしている企業に対して、日系人を雇用するにあたって留意してほしい事項などについて、関係行政機関や経験豊かな企業の方々を講師として迎え、講演会を開催。日系人雇用管理研修会は、日系人が多数就労している都府県を中心に、地元都府県と当センターの共催で開催しています。また、当センターの8府県の地方事務所(栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・静岡・岐阜・大阪)に雇用管理相談員を配置し、日系人の雇用に関する相談・援助を実施しています。

今年度の日系人(外国人)雇用管理研修会は、6月から12月にかけて国内16か所(栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・石川・山梨・岐阜・静岡・愛知・滋賀・大阪・兵庫・広島・三重)で開催されています。各会場1回ずつですが、静岡だけは3回も実施され、静岡における日系人就労者の多さがうかがわれます。

||| 出稼ぎ外国人の実態

<藤田部長談>

1991年には3千件余であった労働相談等が、現在は職業生活相談がかなり多くなったため、賃金不払いなどの労働相談等も含めて3万件余にもなっている。雇用主は、日本人より安く、3Kの仕事でも嫌がらないということで日系人を雇うのだが、正規ルートによって雇うと年金とか健康保険とか費用がかかりメリットが少なくなる。したがって、中国人のような他の外国人を雇うか、またはブローカーを介在させることになり、

直接雇用は1割ぐらいしかない。一方、日系人は、より多くの収入を得てブラジルに戻ろうと



考えている、いわゆる出稼ぎのため、好むわけではないが3Kの仕事でも条件が悪くても甘んじている。3年ぐらいの出稼ぎで故郷に家が建った人もあり、新規に来日する人は跡をたたない。しかし、日系人の多くはリピーターで占められ、物価高のため短期間にお金が貯められないことや子どもの問題などの理由で、最近では長期化・定住化の傾向にある。今年の4月には群馬県太田市にはブラジル学校ができた。

||| 日系人労働者のための合同研修会及び日本語講習会

今年度も10月から11月にかけての日曜日に、10都府県で実施されましたが、私たちは、10月24日(日)東京日系人雇用サービスセンターで開催された合同研修会を訪ねました。

まず、2階の相談カウンターでは、上野の職業安定所からの労働相談員、東京弁護士会からの弁護士、カトリックの神父と多方面の専門家の方々が待機していました。秋晴れの行楽日和だったせい、午前中だったせい、相談に来ている日系人の姿はあまり見うけられません。神父様は、日系人に限らずカトリックの人たちの相談を受けますが、女性に限ることでした。夫の暴力その他から身を守るための保護もしているそうです。

上の階では、日本語講習会をしていました。ブラジル人向けとペルー人向けのクラスが用意されていましたが、私たちはブラジル人向けのクラスを見学しました。正面に日本とブラジルの国旗を掲げ、机の上には秋の果物が飾ってあります。壁にも五十音表や、地図などが貼ってあり、楽しそうな教室です。ブラジル在住経験のある井上先生は、ポルトガル語を混じえながら、来日一ヵ月という若い男性の生徒を教えていました。日本語教材などが展示されていましたが、その中には宮沢賢二のポルトガル語訳の本などもありました。ちょうどブラジルの総領事が来訪、興味深げに質問したり見回ったりしていらっしゃいました。

そこで配布された「職場で役立つ日本語会話集」は2種類あり、特に<職種編>は自動車組立作業・弁当製造作業など作業種別に使われる語いや表現が会話形式で書かれていて、私たちが日本語学習支援をする時にも参考になると思われました。

規則の例外と例外の規則(2)

「正しい日本語」とは何か

日本大学講師 福田知行

前回の続きですが、まず宿題の答えは次の通りです。

普通は動詞の否定形は、五段動詞なら語尾のウ段をア段に変えて「ない」を付け、一段動詞なら語尾の「る」を取って「ない」を付けますが、「ある」だけは「あらない」にならず単に「ない」となります。

次に動詞のテ形は、五段動詞なら語尾の「う」「つ」「る」を「って」に変え、「ぬ」「む」「ぶ」なら「んで」に、「く」は「いて」に、「ぐ」は「いで」に、「す」は「して」に変え、一段動詞なら「る」を取って「て」を付ければいいのですが、「行く」だけは「行って」となり、「く」で終わっているにもかかわらず「行いて」にはなりません。

また、五段動詞のマス形は、五段動詞なら語尾のウ段をイ段に変えて「ます」を付けますが、「なさる」「ござる」「くださる」「おっしゃる」「いらっしゃる」の5つだけは「なさります」「ござります」「くださります」「おっしゃります」「いらっしゃります」にはならず、「なさいます」「ございます」「くださいます」「おっしゃいます」「いらっしゃいます」となります。

以上が、「ある」「行く」「なさる」「ござる」「くださる」「おっしゃる」「いらっしゃる」が例外である理由ですが、最後の5つの例は「例外の規則」が観察できる例です。つまり、マス形の例外になっている動詞はすべて「ア段のサ行音(さ、ざ、しゃ) + る」で終わっていて、意味的にも尊敬を表すものになって

います。

今回は規則・不規則の問題と日本語の教え方との関係について述べるつもりでしたが、もう少し具体的な例を挙げてからにしたいと思っています。

もう一つの例として「例外の規則」の日本語の「助数詞」について考えてみましょう。日本語には助数詞がたくさんありますが、韓国語(名数詞)や中国語(量詞)にもたくさんあり、どういう名詞にどういう助数詞が付くかを覚えるのは学習者にとってかなり難しいものです。日本語の場合、さらに数字の違いによって各助数詞の発音が変化するので、さらに難しくなっています。たとえば、1本(いっほん)・2本(にほん)・3本(さんほん)・4本(よんほん)…に対して、1分(いっぶん)・2分(にぶん)・3分(さんぶん)・4分(よんぶん)…と変化します。

いろいろな本や教科書にはこうした変化を網羅した表が載っていますが、どれも数種類のパターンを示しながら、各パターンの例外となる助数詞をいく

つか挙げてある、という形になっているようです。はたしてそういう形式でいいのでしょうか。



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークは、1994年と1997年に各々印刷費の助成を受け『ボランティア日本語教室ガイド』を作成・配布してきました。この『教室ガイド』は、国内はもちろん海外でも広く利用され、高く評価されてきました。

毎年変わる活動情報には、補充訂正版を挟みこむことで対応してきましたが、このたび日本財団ボランティア活動援助金を取得でき、『教室ガイド 2000年版』を作成することになりました。今回は調査費も認められましたので、東京の23区

日本財団ボランティア活動援助金による

ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000

作成に向けて動き出す

27市4町村全地域で活動するボランティア日本語教室のすべてを調査・掲載して、日本語学習者等にとって情報豊かなより役立つものにしたいと計画しています。

TNVNでは、早速「ガイドプロジェクト」チームを組み、2000年5月発行を目指して、アンケート調査から始めていま

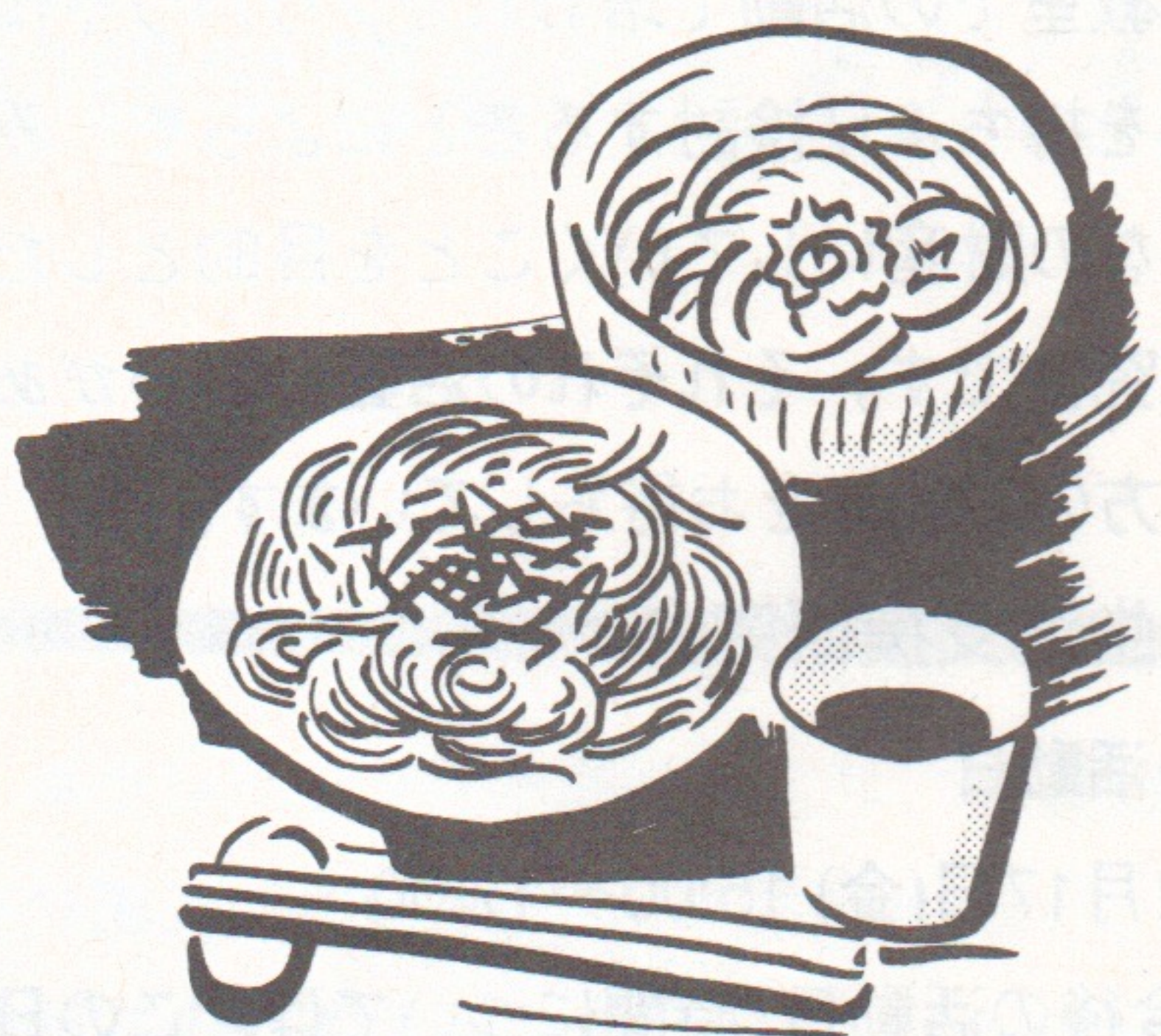
す。会員以外の団体・グループには、スタッフが手分けして調査協力をお願いしていますが、情報が十分とはいえませんので、都内で活動しているボランティア日本語教室をご存知でしたら、ぜひTNVN事務局までご一報くださるようお願いいたします。

日本の常識

Common sense in Japan

としこし おおみそか 第7回 年越しそばと大晦日

はや早いものでもう12月。新年を迎えるにあたって、各家庭では大掃除がはじまり、さまざまな準備に忙しい時期がやってきます。そんな慌ただしさのなかで感じる疲れも、年越しそばを食べると、新年を迎えるうれしさで吹き飛ばしてしまうものです。でも、なぜ大晦日にそばなのでしょう。



1年の最後の日である“大晦日”は、家中の掃除をし、はなれて暮らしている家族が帰省し、一家団らんで新しい年を迎える日です。昔から大晦日は“大つごもり”とも言われ、神社やお寺におこもりしたり、家で寝ずに夜を明かしたとか。

夜の12時が近づくと、全国のお寺では除夜の鐘を突きはじめます。これは「人間には108の煩惱があり、除夜の鐘を108回突くことで、その煩惱を取り除くことができる」という仏教の教えからきているもの。除夜とは、“夜を除く(寝ない)”という意味で、人々はこの鐘の音を聞きながら、翌年の健康や長寿、家庭円満などを願って年越しそばを食べ、新年を迎えるのです。

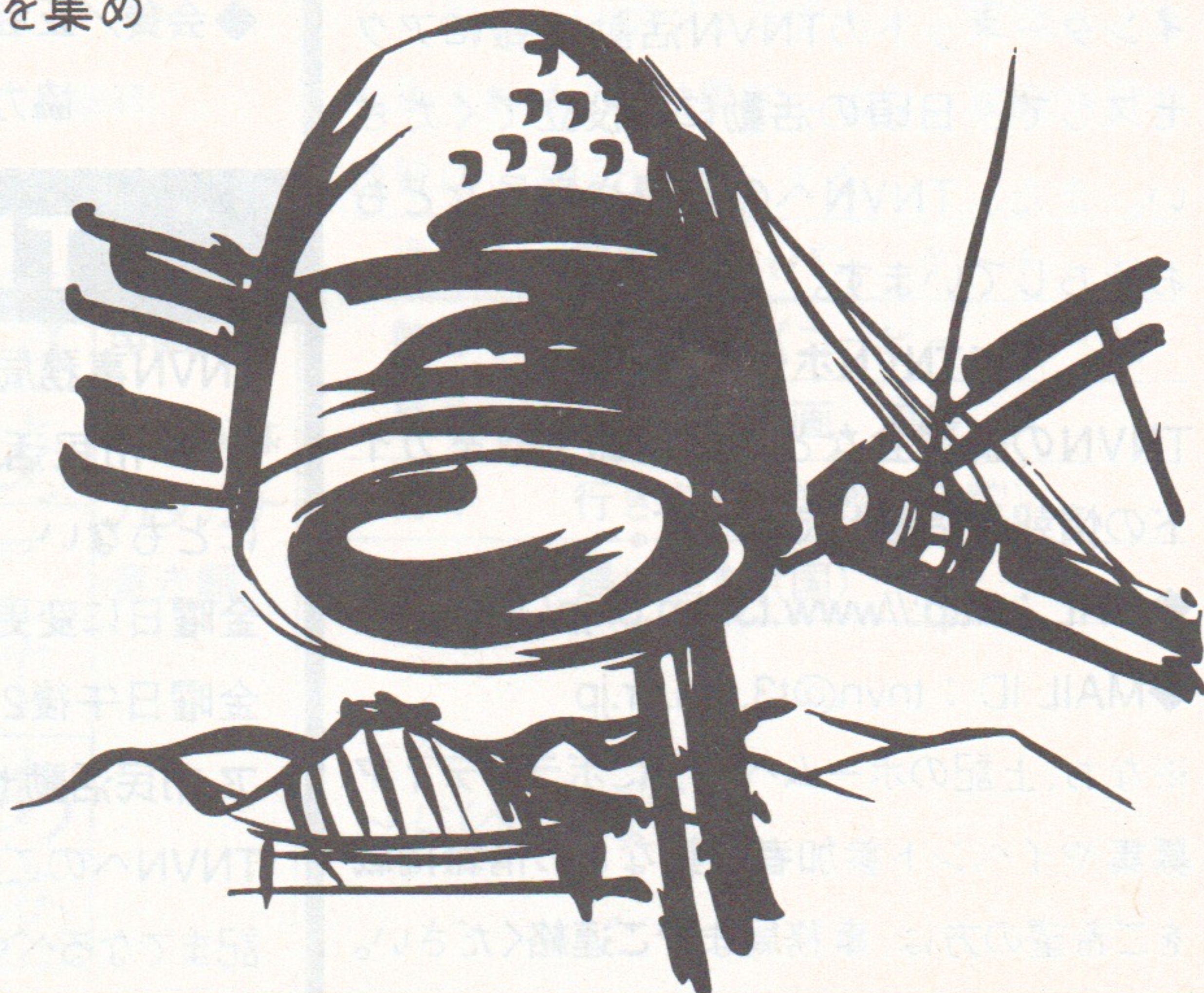
では、どうして1年で最後の日に

“そば”なのでしょう？大晦日に年越しそばを食べるといふ習慣は、江戸時代以降に広まったそうで、その起源は、大晦日の大掃除のとき、金細工師が仕事場に飛び散った金粉をそばで練った団子で集め、それを火鉢で焼いて金粉を取ったことから始まったと言われています。現在でも、金箔師は散らばった金の粉を、こねたそばで集めているとのこと。また他にも、江戸時代に商家で、多忙な月末に手軽でおいしい食べ物としてそば切りを食べる習慣があり、それが大晦日に食べるそば切りだけが現在まで年越しそばとして残り、一般家庭にも広まったという説もあります。ここから「そばで金銀をかき集める」＝「そばは金を集める」と言われ、大晦日に

そばを食べることが縁起になったのです。今では少々意味合いが変わり、そばが五臓の毒を取るといふので、無病息災を祈ると同時に、

そばのように“細く長く”生きたいという長寿の願いや、“末永くよろしく”という親愛の意味をこめて食べています。

しかし、忘れてはならないのが、食べ残すと新年は小銭にも事欠くと戒められていることです。また、どういふいわれかは定かではないのですが、年を越してからそばを食べるのは縁起が悪いこととされています。「そんな迷信だよ」という人も、年越しそばを食べるといふことは、新年を迎える縁起のいい行事ということには違いないので、このような意味があることを思い出して食べると、また格別においしいかもしれませんね。



NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。初めて日本語ボランティア活動に参加する方は、ぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

1999年12月10日(金) 午後2～4時
1999年12月17日(金) 午後6～8時
2000年 1月14日(金) 午後2～4時
2000年 1月28日(金) 午後6～8時
2000年 2月 4日(金) 午後2～4時
2000年 2月25日(金) 午後6～8時

◆テーマ

(12月) 日本語ボランティアとは
(1月) 日本語再発見!
(2月) どのように日本語学習を支援しているか

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター会議室
(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス!

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイドの情報も掲載しています。

◆URL : <http://www.t3.rim.or.jp/tnvn/>

◆MAIL ID : tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週金曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL : 03-3235-1171(呼出し)

TNVNへの入会を 希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

「日本語学習支援研究会」 「生活支援研究会」のご案内

ニュースレター23号でお知らせしたように、TNVNでは「日本語学習支援研究会」と「生活支援研究会」の活動をスタートしました。日頃のボランティア日本語教室での活動で培われたノウハウや情報を持ちより検討することによって、みんなの財産にしていくことを目的とした研究会です。それぞれの活動に関心がある方のご参加をお待ちしています。

<生活支援研究会>

◆活動日

12月17日(金) 15:00～17:00

(今後の活動日・時間については、この日の話し合いで決定)

◆テーマ

外国人にかかわるさまざまな生活ケアやボランティア日本語教室のイベントなどのなかから、第一回目の話し合いで今後のテーマを選びます。

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室

<日本語学習支援研究会>

◆活動日

毎月第四金曜日 14:00～16:00

◆テーマ

NHKテレビ日本語講座テキスト「日本で暮らそう」をとりあげ、3月までに第1課から第8課までについて話し合います。

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室

TNVN事務局の活動日が金曜日に

TNVN事務局の活動日が、東京ボランティア・市民活動センターの休館日の変更にともない、これまでの毎週月曜日から金曜日に変更になりました。今後は 毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、下記までなるべく郵便かFAXをお願いします。

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付

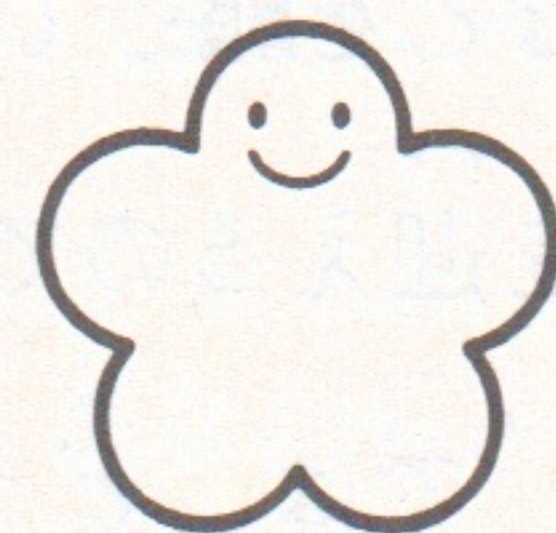
TNVN

東京日本語ボランティア・ネットワーク

TEL : 03-3235-1171

(呼出し/金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050



「ボランティア日本語教室ガイド」 頒布中!

『ボランティア日本語教室ガイド』には、145クラスの活動情報を日本語と英語で掲載。あわせて、外国人のための情報源や相談窓口などのデータも掲載しています。さらに、新たに加入した団体の情報や連絡先等が変更になった団体の情報をまとめた改訂版もプラス。ご希望の方は、東京ボランティアセンターの窓口へ直接おこしいただくか、郵便振替で料金をお払込みください。入金を確認次第、郵送します。

◆頒布価格(実費)/1冊600円
郵送希望の場合は送料込み1000円

◆払込み先
郵便振替口座番号 00100-1-719259
(通信欄に『教室ガイド』と記入)

◆加入者名
東京日本語ボランティア・ネットワーク

港区の高齢者施設で、 外国人ボランティアを募集

港区立北青山高齢者在宅サービスセンターは、地域に根ざした活動をしている高齢者施設です。外国人で下記の内容のボランティアをしてくださる方を募集しています。特別のリクエストはご希望の方との話し合いで決めます。

◆活動内容
*ゲームやおしゃべりなどのレクリエーション
*楽器の演奏(お琴、ピアノなど)や歌などの音楽活動
*絵を描いたり、書道、陶芸などのアート活動
*散歩、外出への同行
*その他、入浴利用者の爪切り、ドライヤーかけ、食事の配膳など

◆問い合わせ・申し込み
港区立北青山高齢者在宅サービスセンター
〒107 港区北青山1-6-1 (担当: 斉藤)
TEL: 03-5410-3410
FAX: 03-5410-3418

青山日本語クラブ 日本語学習者を募集中!

TNVN会員団体の青山日本語クラブでは、日本語を学びたい学習者を募集しています。近くに在住、在勤の方がいらしたら、ぜひご紹介ください。

◆学習時間
毎週火曜日 13:30~15:00
◆会場/港区北青山(花衣アカデミー内)
地下鉄 表参道駅B2出口より徒歩2分
◆学習者会費/1ヶ月 500円
◆問い合わせ・申し込み/前田 恭子
TEL: 090-2722-1226
e-mail: QYF06475@nifty.ne.jp

「入管法改定Q&A」が できました!

皆さんもご存知の通り、入管法が改定されました。けれども分かりにくい点も多いと思われるので、このたび、よくある質問を集めた「入管法改定Q&A」を作成いたしました。

今のところ日本語・英語・中国語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語・ウルドゥー語・インドネシア語版があり、タガログ語・タイ語・ペルシャ語・ルビ付き日本語版も作成していく予定です。

必要な方は、下記までお問い合わせください。

尚、郵送ご希望の方は、切手代等実費をご負担ください。無理な方は相談に応じます。

◆問い合わせ・申し込み
移住労働者と連帯する全国ネットワーク
TEL: 03-3207-7801
FAX: 03-3207-7803
〒169-0051 新宿区西早稲田2-3-18-24
e-mail: fmwj@jca.ax.apc.org
http://www1.odn.ne.jp/~cbj25780/Q&A_campaign.htm

日中文通クラブ、会員募集

日本語を学びたいけれども、日頃機会にめぐまれない中国の日本語学習者(主に地方都市の高校生や大学生)と1対1で文通して、日本語学習を応援しながら交流を深めていきます。文通は日本語でOKです。

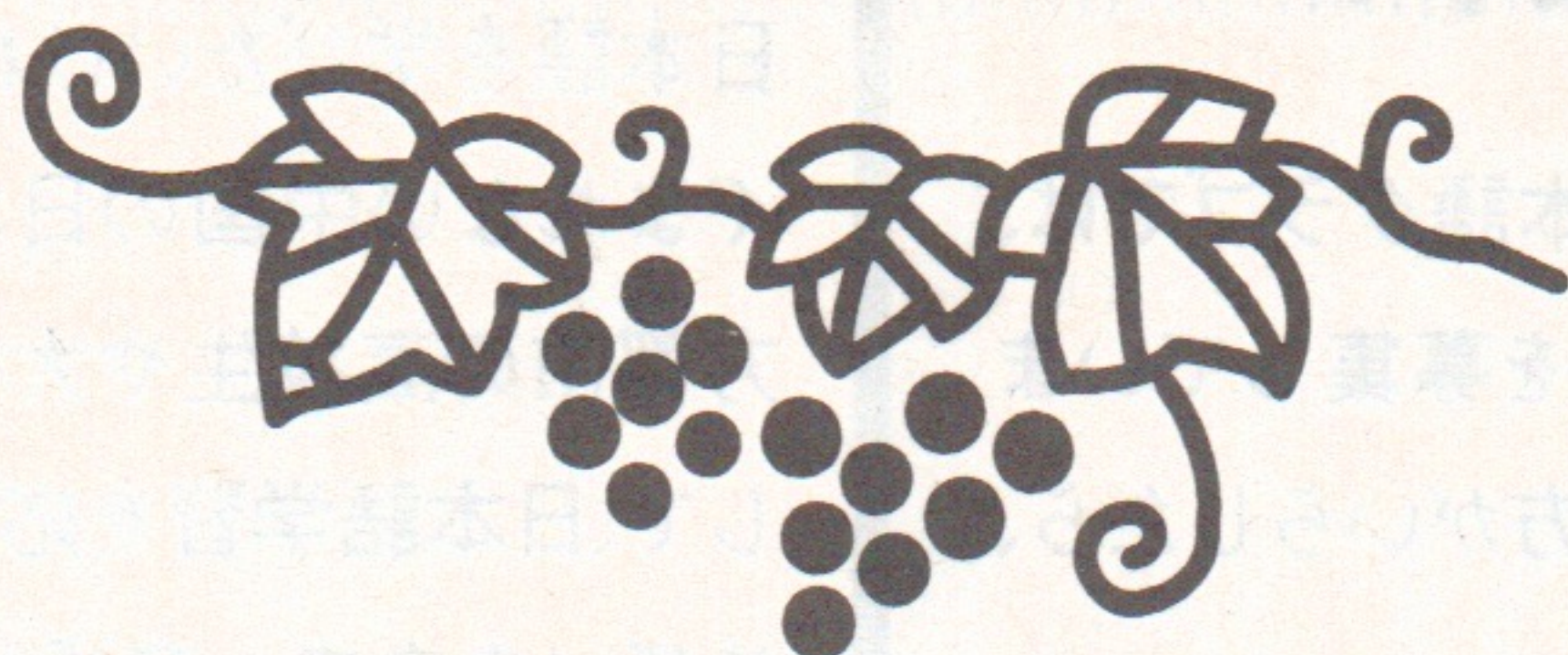
◆費用
入会金: 一般3000円 高校生以下2000円
月会費: 一般500円/月 高校生以下300円/月
◆問い合わせ・申し込み
日中文通クラブ TEL: 066-301-0739

「国語と日本語の連携を考える会」 第5回研究会のお知らせ

今回は、中国帰国者とその児童への日本語教育について事例報告と討議をします。

◆日時
2000年1月22日(土) 15:00~18:00
◆会場/早稲田大学22号館8階第一会議室
(中央図書館よりグランド坂を20mほど下がった黄色いビル)
◆プログラム
15:00 開会
15:10~15:30 中国人児童生徒への日本語指導…実践から
大上忠幸(東京学芸大学大学院)
15:30~16:00 教科教育と日本語教育の統合を目指して
池上摩希子・斉藤ひろみ
(中国帰国者所沢センター)
16:15~17:50 質疑応答・自由討論
18:00 閉会
◆参加費/無料
◆主催/国語と日本語の連携を考える会
呼びかけ人 竹長吉正(埼玉大学教育学部)
細川英雄(早稲田大学日本語研究教育センター)
◆問い合わせ/〒169-0051 早稲田大学
日本語研究教育センター 細川研究室
TEL: 03-5286-1858 FAX: 03-3203-7672
e-mail: hosokawa@mn.waseda.ac.jp
http://faculty.web.waseda.ac.jp/hosokawa/home.htm

BULLETIN BOARD



TNVNの運営委員兼事務局スタッフを引き受けて2年ほど経つが、TNVNのことがだんだん分かると共に、TNVNの良さをしみじみ感じている。そして、私の所属団体「まちだ日本語ボランティアネット」の創立時のことを思い出す。

それは6年前であるが、私はそのときに日本語ボランティアを始めた。それまで、日本語ボランティアについて何の知識もなかった。団体名を決めるとき、創立者がこの名前を提案したが、「TNVNの町田支部の気分」という説明だった。TNVNもネットワークという言葉も初めて聞くものだったが、なにかりっぱなものに関係ができるのかと晴れがましい気がした。

今、この時の決定は間違っていなかったと確信している。そして、TNVNには無断で名付けたが、TNVNに関連づけた名前にかけても、所属団体の発展に努力しなけ

ればならないと思うし、また、所属団体のためにも、TNVNが発展してもらいたいと思う。

TNVNの利点のうち、まずあげられるのは情報入手であろう。各地団体のリーダーであるスタッフと話し合っ得る情報と共に、TNVNに届く資料等の情報も貴重なものがある。資料等は事務局の活動場所となっている「東京ボランティア・市民活動センター」の書棚にも置かせてもらっている。TNVNの一般会員も事務局の活動日にのぞきにきてほしい。また、TNVNのスタッフとも話し合っほしい。ただ、資料等の管理と活用については、まだ不十分な点も多い。私自身の今後のTNVNでの課題の一つとして、この改善に取り組みたい。

床呂 英一 (TNVN運営委員)

地域の日本語ボランティア事情

豊島区発

豊島区の外国人登録者数は13,351人(5.4%) (1997年12月末現在)で、新宿・足立・世田谷に次いでいる。

豊島区では地域での国際交流を進めるため、区内で活動している国際交流団体との情報提供・交換やネットワーク化を目的に「豊島区国際交流連絡会」を設けている。9月12日には恒例となった「としま国際交流『ふれあい'99』」が豊島区区民センターで開催され、各種イベント、出展・展示コーナー、交流教室(日本語教室：にほんごさろん)が開かれた。外国人への日本語教育としては、日本語がわからず、日常生活に不便を感じる外国人を対象に「にほんごひろば」が定期的に行われている。また、一方では通訳ボラ

ンティア派遣事業も実施している。区内の日本語ボランティアとしては、学習院大学日本語教育専攻の学生による日本語教室(初級)や一般のボランティアグループが日本語学習の支援をしている。そのボランティアグループのひとつである「としま日本語サークル」は、豊島区社会福祉協議会・豊島ボランティア・センターの呼びかけで1994年12月に発足し、ボランティアによる外国人への日本語学習支援をしている。現在、時間帯により3グループ[火曜日昼間・夜間：目白厚生会館(目白)、土曜日昼間：青年館(池袋)]に分かれて活動している。

梶村 勝利 / としま日本語サークル

SPECIAL THANKS

★東京日系人雇用サービスセンター様
快く取材に応じていただきました。

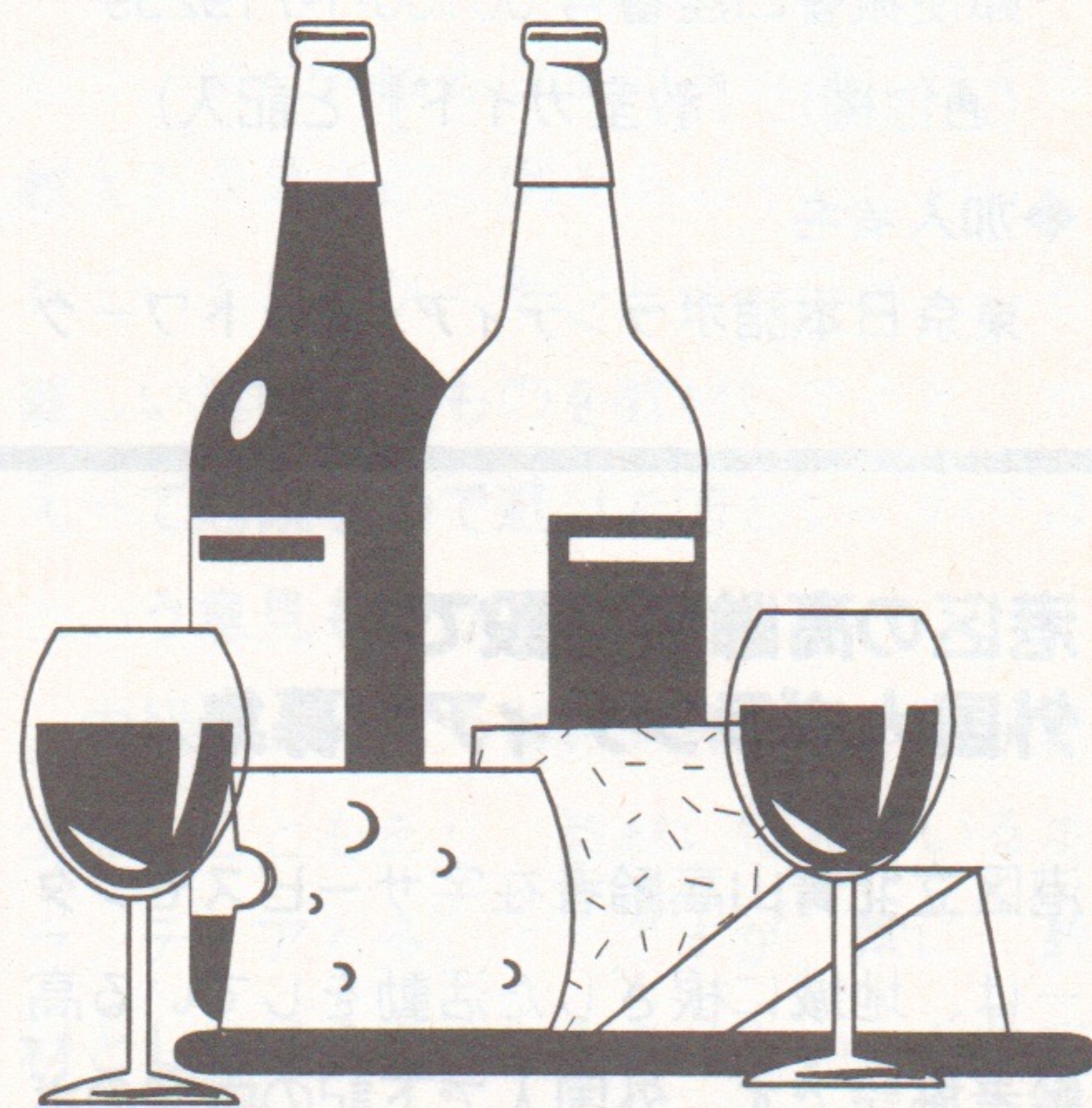
WELCOME!
新入会員のご紹介

◆協力会員(個人)

栗原 実咲

(敬称略)

'99年11月30日現在の会員数は、正会員70団体・協力会員74名・賛助会員10です。



編集後記

●気がつけば師走の声を聞いて、今年も残り少し。もうすぐ2000年なのだから、仕事やボランティアの(それから家事も)スケジュールを片づけて、新年の抱負でも考えたい。でも、その前にクリスマスの企画はどうしよう…。



発行人 / 中田 紀子
編集人 / 前田 恭子
レイアウト / 鶴田 環恵